

# 関節リウマチと向き合う。

関節リウマチとは身体のおちこちの関節に炎症が起こり、関節が腫れて痛む病気です。原因ははっきりしていませんが、ホルモンの関係などによって、男性に比べて女性の発症が多く、三〇～五〇歳に発症のピークがあります。また、有病率は一パーセント程度といわれ、一〇〇人に一人がリウマチを発症していることになり、それほど珍しい病気ではありません。

関節リウマチの初期症状は、手や足の指といった小さな関節の痛み・腫れや、朝起きた時に関節が動かしにくくなる「こわばり」などです。やがて炎症が続くと、関節付近の軟骨や骨が壊れて変形し、動かせる範囲が狭くなり、特徴的な骨の変形

をきたします。さらに症状が進んで関節の骨同士がくっつくこと、関節が動かなくなってしまうのです。また、近年では六〇歳以上で発生する高齢発症のリウマチも報告されており、男女の発症率差が少ない、関節リウマチに特徴的な自己抗体の出現率が少ない、症状が出る関節が肩や膝・肘といった大関節が多いといった特徴があります。

二〇年前までは、関節リウマチは治らない病気でした。治療では痛みのコントロールを行なっていました。やがて重大な機能障害を引き起こすという経過をたどっていました。しかし、医療の進歩によって、現

在では骨の破壊そのものを抑制する治療が可能となっています。画期的な内服薬ができ、さらにこの一〇年では生物学的製剤という注射薬が出現し、骨の変形を阻止する治療が可能となったのです。

このように現在リウマチには有効な治療がたくさんありますが、早期発見・早期治療が最大の力。初期症状が出現している場合は、すぐに専門医の受診をお勧めします。万が一リウマチと診断された場合、痛みがあったとしても適度に動かすようにしましょう。また治療は長期間にわたることが多いので、信頼できる主治医と相談しながら、前向きに治療に取り組んでいくことが大切です。

イラスト：ナコ



公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構

倉敷リバーサイド病院

〒712-8007 倉敷市鶴の浦2-6-11

tel.086-448-1111 fax.086-448-1251

http://www.kchnet.or.jp/krh/

倉敷リバーサイド病院  
内科  
武良菜津子